

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-25)

別紙1

施策名	目標5-6 東日本大震災への対応(自然環境の復旧・復興)				担当部局名	自然環境局 国立公園課 野生生物課		作成責任者名 (※記入は任意)	則久雅司(国立公園課長) 中澤圭一(野生生物課長)				
施策の概要	地域の自然資源等を活用した三陸復興国立公園の拡張、被災した公園事業施設の復旧や復興のための整備に取り組む。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	三陸復興国立公園の創設を始めとした様々な取組を通じて、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域のくらしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興する。				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定) 「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針(平成28年3月11日閣議決定) 三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン(平成24年5月7日 環境省) 生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月28日閣議決定) 自然公園法 		政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1 三陸復興国立公園(平成24年度までは陸中海岸国立公園)の利用者数(千人)	458	H23年度	6,994	R3年度	-	-	6,994	-					三陸復興国立公園の創設を始めとする様々な取組によって、当該公園を訪れる者が増加することは、観光拠点の復旧・復興が進んでいると考えられることから、測定指標として「三陸復興国立公園利用者数」を選定した。なお、目標値は、元々令和2年度が目標年度であったが、コロナ禍の事情を踏まえ、令和3年度目標として、利用者数を震災以前の水準(6,994千人以上)にすることとしている。
2 三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)の年間利用者数(千人)	2,975	H17~H21年度	2,975	R3年度	-	-	-	-					被災した既存施設の復旧や観光地の再生に資する復興を図るため、三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)での震災前5年間の平均年間利用者数(2,975千人)を目標値として評価する。なお、同目標値は、元々令和2年度が目標年度であったが、コロナ禍の事情を踏まえ、令和3年度目標として、再度設定する。
3 みちのく潮風トレイル踏破認定証の発行数(人)					-	-	-	-					被災地を南北に繋ぎ交流を深めるため、総延長約1,000kmの長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」(以下「トレイル」)の路線設定を進めており、トレイルを歩く者が増えることは、地域内外の交流を生み、地域の活性化にも資すると考えられる。歩くものの増減傾向を把握する測定指標として、トレイルの踏破者の申し出に対し、一部市町村が構成する協議会が実施している「踏破認定制度」における認定証の年間発行数を指標とした。 平成30年までは踏破認定の対象が一部の区間のみであったが、令和元年度の全線開通に伴い、全線踏破を対象とした新たな踏破認定制度を創設した。
4 イノシシの出現頻度を前年度実績値以上とする。	イノシシ等を安全かつ効率的に捕獲し、被害軽減に寄与する生息状況を指す。		-		帰還困難区域内等においてイノシシ等の野生鳥獣を捕獲することにより鳥獣等の被害を軽減することは、帰還後の住民の生活環境を整備することに直結し、東日本大震災からの復興に寄与するため、自動撮影カメラによるイノシシの出現頻度を測定指標とする。								

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
三陸復興国立公園再編成 等推進事業 (平成23年度)(再掲)	-	-	-	-	1,3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然公園の再編成による三陸復興国立公園の創設、長距離自然歩道(みちのく潮風トレイル)の路線設定、エコツアー等の公園利用プログラムの作成、自然環境変化状況の把握のための基礎調査等の具体的な取組を実施した。 ・平成26年度に三陸復興国立公園に南三陸金華山国定公園を編入、平成31年度にみちのく潮風トレイルの全路線を開通した。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三陸復興国立公園の利用者数を震災以前の水準に回復することを目標とする。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園を再編成することで、自然環境を活かして公園利用者数を回復し、復興していく基盤とする。また、みちのく潮風トレイルを設定することで、公園利用者を増やし、地域観光の活性化を図る。 	-
放射線による自然生態系 への影響調査費 (平成25年度)(再掲)	-	-	-	-	-	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線による自然生態系への影響を把握するため、野生動植物への放射線の影響を調査するとともに、関係機関や専門家と連携しながら情報収集に努めている。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定無し <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は設定していないが、放射線による自然生態系への影響把握・野生動植物への放射線影響に関する調査、関係機関等との連携や情報収集を実施することにより、放射線による自然生態系への影響を把握することができる。 	-
三陸復興国立公園等復興 事業 (平成24年度)	1,118 (1,046)	248 (236)	156 (151)	-	2	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の観点から津波対策等の防災機能を強化しつつ、国立公園の集団施設地区、歩道等及び東北太平洋岸自然歩道の利用拠点等において、被災した既存利用施設の復旧整備や、観光地の再生に資する復興のための整備を行う。 ・三陸復興国立公園(平成25年度指定)における利用の回復・増進を図る。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三陸復興国立公園内の利用拠点での震災前5年間の平均年間利用者数を目標とする。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業を通じて、国立公園事業施設の復旧・復興を図ることで、国立公園の利用の回復・増進を見込んでいる。 	0134
帰還困難区域内等におけ る鳥獣捕獲等緊急対策事 業 (平成25年度)	416 (398)	418 (411)	414 (402)	411	4	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域内等において、イノシシ等野生鳥獣の捕獲等を実施する。 ・イノシシ等野生鳥獣による農業被害や生活環境被害等の軽減を図ることによって、住民の帰還に向けた環境整備の円滑な実施が見込まれる。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等を安全かつ効率的に捕獲し、被害軽減に寄与する生息状況を目指す。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域内等のイノシシ等野生鳥獣の生息状況を把握し、効率的かつ安全な方法で捕獲等を実施することにより、個体数の削減と被害の軽減を図る。 	0152
施策の予算額・執行額	1,534 (1,444)	666 (647)	570 (553)	411	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-	